

1. 評価結果概要表

作成日 2007年5月17日

【評価実施概要】

事業所番号	0870400280
法人名	(株)アイアール
事業所名	グループホーム ローズマリー
所在地 (電話番号)	茨城県古河市古河514-1 (電話)0280-30-8338

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年5月17日	評価確定日	平成19年11月19日

【情報提供票より】(平成19年4月30日事業所記入)

(1)組織概要	1		
開設年月日	平成 15 年	9 月	1 日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	24 人	常勤16人, 非常勤8人, 常勤換算	17.6人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造モルタル和瓦 造り	
	2階 建ての	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1500 円	

(4)利用者の概要(4月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.17 歳	最低	76 歳	最高	99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	山中医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

比較的新しい住宅街の一角に和風建築物2階建てのホームが町並みに溶け込むように建設されており、親近感を感じることが出来る。玄関も広く気軽に入りやすい雰囲気がある。ホーム内は純和風の作りになっており木の暖かな雰囲気の中入居者と職員が和やかな雰囲気の中、一緒に生活している。居室はフローリングの部屋と畳敷きの部屋と2種類が用意されベッドや布団など入居者の好みに寝具が選択されている。居室には多くの馴染みの物が設置されており、その人らしさを感じることが出来る。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画見直しと評価について職員全体で話し合いをもち改善に取り組まれている。また管理者自ら介護計画の講習などに積極的に参加され職員への啓発に取り組まれている。その取り組みにより介護計画の立案や見直しについて改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	調査に対し職員からの意見を多く取り入れるよう工夫され、職員全体で取り組む姿勢が見られた。職員も自己評価の内容を理解し評価に対し積極的に参加されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	多くの出席者24名を動員しホテルで開催するなど家族への細かな配慮が窺える。その中で家族からの意見や看取りについて、今後の運営についてなど行政からの意見を聞き入れ、充実した意見交換が行われていた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からの意見や苦情、トラブルは克明に記録され職員間で話し合いを持ちトラブルや意見、苦情に対する検討と改善を積極的に行っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	住宅街の中にあり地域の住民や子供たちが気軽に立ち寄る場所となっている。その中でボランティアや多施設との連携を図り地域の中に浸透している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念をつくり職員全員で理解できるようカンファレンスなどを使用し啓発に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングなどを利用し職員全体で話し合い、その内容を踏まえ入居者に対しケアを提供している。また具体的な内容についてケアの統一をはかれるよう努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の住民や子供の来所も多く開かれた場所になっている。ボランティアや学生の育成などにも積極的に取り組まれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意図を理解し管理者職員間で話し合い意見などを多く取り入れ外部評価に取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多くの参加者をもって運営会議を行っている。行政や家族地域の住民の参加もあり、運営内容や家族の意見など意見交換が行われている。その内容を記載しケアの質の向上に努めている。		

茨城県 グループホームローズマリー

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要時市町村を窓口にしアドバイスを受けるようにしている。また推進会議などにも市町村に参加してもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会も多く面会時などを利用し家族に説明するほか、手紙などを利用し積極的に連絡を取るようになっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの具体的な苦情は現在のところ受けていない。しかし家族の細かな意見に対応するよう管理者の判断により苦情やトラブルを記載し職員間で対応できるよう工夫している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	以前までは、職員の退職も多く馴染みの環境の整備に苦勞された経過があるが、現在職員も定着し馴染みの職員を保持している。入居者の馴染みのかかわりを持つように心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修は日勤扱いとし交通費や食事代などを会社負担とするなどし職員の教育に取り組まれている。	○	職員の外部研修に力を入れ、教育に積極的に取り組まれている。今後は、外部研修の内容が全てのスタッフに伝達できるよう工夫され、更なる教育の徹底に努力されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の介護施設などと連携しボランティアを受け入れ、積極的に交流を持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人のこだわりや希望を重視した、環境づくりを提供している。馴染みの関係を維持し家族が入居者の部屋に宿泊できるような配慮もある。お酒好きの入居者に同行しカラオケなどに外出するなどの工夫もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は見守りを重視し、入居者の役割や出来ることの維持を考慮しコミュニケーションを保ちケアを提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の意思や意見を重視しその人らしく生活できるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスを週一回開催し積極的に意見交換をし必要時には家族を交え介護計画の作成見直しを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は職員がいつでも確認出来るよう工夫し、状態の変化に応じ随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	住宅街の中のホームとして独自の機能を生かし家族や近隣住民に開かれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医院の医師の協力もあり、夜勤の職員も安心して業務に携われるよう配慮されている。また終末期のドクター連携も可能になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現段階で終末期の入居者はいないが終末期に対する職員の啓発や家族への配慮があり、終末期をホームで迎えるための準備が出来ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各居室の入室時に入居者の承諾もらい入るようにしている。またその人らしさを維持するため居室には入居者の希望が無ければ掃除なども控えるなど入居者個人を重視したケアの提供が行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを整えながらご本人の希望や気分を壊さないように心がけているまたその日の天気や状態などの変化を細かくチェックしその日の入居者に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の状態に合わせて職員が適度に配置され入居者が無理なく食事を楽しめるよう配慮されている。		外食などの計画も多く入居者が楽しめるような配慮が随所に見られる。今後入居者と職員と一緒に食事を楽しめるような場面作りを施設内でも出来るような配慮に努力されたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は充実したマンパワーもあり入居者の希望からいつでも入浴が可能になっている。1階の浴室には、機械入浴も可能な設備が整っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1階と2階の交流を持ちながら入居者の得意なゲームなどの対戦があったり、女性の入居者は居室で裁縫など馴染みの手技が発揮できる場面作りを工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームで飼っている犬の散歩をはじめ、買い物や外食など多彩な外出の支援がある。入居者は希望に合う外出に参加している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけず入居者の出入りは自由に出来ている。昼食後に玄関から顔をだし天気を気にする入居者の姿も見ることが出来た。ごく自然に入居者が玄関を出入りする姿が印象深い。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練の徹底、入居者を含め防災訓練が実施されている。それらを写真や記録に残し今後の防災対策に生かしている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の食事摂取量を記録しデーターとしている。その記録を職員間で共有し栄養状態の把握が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は違和感なく職員が配置され、暖かな雰囲気がある。季節の草花やその時への配慮が随所に入り入居者は落ち着いた雰囲気の中共有空間で生活している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはホーム独自の工夫が見られ、そのひとらしい生活空間が提供されている。畳の部屋や入居者の馴染みの物品が多く持ち込まれており、暖かな雰囲気がある。		